

ペットのための

災害対策

いざという時に、
ペットを守るのは、
飼い主さんだけです！



大田区

災害が起これば、動物も人と同じように被災します。

災害時にペットを守るのは、飼い主さんだけです。大切なペットを守るために、災害時に備えて、日頃から準備をしておきましょう。

1 🐾 防災用品を用意する

ペットに必要な物は、平常時から必ず用意しておきましょう。

・災害時には、ペット用品は手に入りにくくなります。ペットの命や健康に関わるものを最優先に用意しましょう。

防災用品（例）

- ペットフード、水
(最低5日分、できれば7日分以上)
- ケージ、キャリーバッグ
- 首輪、リード
- 薬、療法食
- トイレ用品
(ペットシート、猫砂、消臭剤など)
- ペット用の食器
- ペットの写真(迷子の時に必要です)
- ペットの情報を記したノートなど

持ち出し易い
場所に保管する
ことも大切だよ！



犬の防災用品（例）

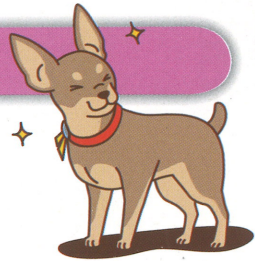


猫の防災用品（例）



2 🐾 健康管理をする

災害時には、他のペットや人との接触が想定されます。
日頃から、ワクチン、狂犬病予防注射、ダニ・ノミの
駆除などを行い、体は清潔に保ちましょう。



3 🐾 身元表示をする

災害などの混乱の中では、ペットが迷子になってしまうこともあります。
犬鑑札、狂犬病予防注射済票、迷子札、マイクロチップ(※)など身元が分
かるものをつけましょう。

※ 個体識別を可能にする電子標識器具で動物の体内に埋め込むものです。

犬鑑札



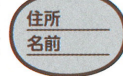
注射済票



マイクロチップなど



迷子札



4 🐾 しつけをする

緊急時に迅速に避難できるように、また、他の人の迷惑にならないよう
に、基本的なしつけをしておきましょう。

特に、嫌がらずにケージに入る訓練は必要です。

しつけ(例)

犬

- 「待て」「伏せ」などの基本的な号令に従う
- ケージに嫌がらずに入る
- トイレは決められた場所でする
- 無駄吠えをしない
- 他人や他の動物を怖がらない

猫

- ケージやキャリーバッグに嫌がらずに入る
- トイレは決められた場所にする
- 他人や他の動物を怖がらない

5 協力し合える仲間を作る



いざという時に協力し合えるように、日頃から近隣の方とコミュニケーションを取りましょう。また、親戚、友人など、緊急時のペットの一時預け先を確保しておきましょう。

6 飼育場所は安全な場所に

ペットが普段いる場所は、地震のときに周囲の物が倒れたり落下しないように、物を固定などするか、安全な場所に移動しましょう。

災害が発生したら！？

飼い主が無事でなければ、ペットを守ることができません。まず、人の安全を確保してから、ペットを守ってください。

※災害はいつ起こるか分かりません。避難所におけるペットの受入れの可否については、避難所ごとに異なります。平常時から避難所の運営について検討している避難所運営協議会で十分に話し合うなど、災害時のペットの安全について考えておきましょう。

編集・発行

大田区 生活衛生課・防災課
(東京都獣医師会大田支部監修) 平成24年6月

色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。